宮崎国際大学教育学部『教育学論集』第 6 号（2019）83 - 96 頁

特別支援学校の音楽指導における音楽療法的なアプローチの在り方の一考察
－「自立活動」領域を活用した音楽指導－

日髙　まり子

要約

特別支援学校における音楽指導では、その指導のねらいや実践方法に音楽療法的なアプローチが有効であるという視点に立ち、近年、学校現場において音楽療法を取り入れた指導が提案されるようになってきている。音楽教育と音楽療法は、音・音楽の特性を活用し様々な音楽活動を行われることは共通である。特別支援学校の音楽活動においても、音楽療法的なアプローチの実践を「自立活動」領域と関連付けた指導がなされている。しかし、音楽教育は歌唱活動やや器楽活動、鑑賞、音楽づくりなどを通して音楽の知識理解を深め音楽への感性を高めることが目的とされるもので、音楽療法は音、音楽を使って心身機能の維持改善等の治療的な目的をもつもので、その目的には相違性も見ることができる。教育実践を分析し、「自立活動」領域における音楽療法的なアプローチによる発展的な音楽指導について考察する。

キーワード：特別支援学校、音楽教育、教育課程、音楽療法、自立活動

１．　はじめに

特別支援学校における音楽指導は、学習指導要領の目標、指導内容により学習計画されたものを授業実践していく。ノンバーバルなコミュニケーションが成立しやすい音楽は、障害のある児童生徒にとって様々な身体的・社会的スキルを身につけることのできる教科のひとつとなっている。障害のある子ども一人一人の多様なニーズに合わせた指導の必要性のある特別支援教育においては、音楽の特性を活かした指導により、より有効的な授業実践とすることができる。音楽の特性として、生理的な反応を誘発すること、様々な感覚への刺激となること、手指の巧緻性や身体バランスなど運動機能に関与すること、認知に関する機能に関係すること、合唱や合奏、音楽遊びなどコミュニケーションを引き出せる活動があること、社会的要素やルールなどを楽しい活動から学べること、また、情緒の安定や心理的解放につなげること、自己表現の体験や自己の精神のコントロール、余暇活動への展開などがあげられる。これらの特性は特別支援学校の教育課程に位置付けられている「自立活動」領域がとの関連性が深いと考えられる。さらに土野（2006）は障害児にとっての音楽は、「①音や音楽を通して外界に気づかせる。②対人コミュニケーションを円滑化する。③秩序形成を促進する。④情動を発散させる。⑤触覚-視覚-聴覚-運動などの各感覚を統合する。⑥行動の自己調整力を高める。⑦安心感・満足感・達成感を経験する場を提供する。⑧身体自己像を形成する。⑨社会性を向上させる。⑩表現力を拡大する。」の役割があると示し、「障害児への音楽療法の意味を、音楽を介して障害児の抱える社会的ハンディキャップを軽減させ、少しでも社会生活が営みやすくなるように援助すること、と考えている。」と述べている。音楽の特性を活かした音楽療法的アプローチでの特別支援学校における音楽指導について考察したいと考える。

２．研究目的

特別支援学校における音楽教育と音楽療法の共通性と「自立活動」領域と音楽療法の共有性を明らかにし、音楽の授業実践の分析を通して、音楽療法的なアプローチによる音楽指導を考察する。

３．研究の方法

・音楽教育と音楽療法の共通性について文献等からまとめる。
・「自立活動」領域と音楽療法の共有性について、分類表から音楽的活動の内容を分析する。
・「自立活動」領域と音楽療法的アプローチの関連性を実践事例(学習指導案)から分析する。

４．結果

(1)音楽教育と音楽療法の共通性

音楽教育と音楽療法においては、活動において同じ音・音楽を通した活動を取り扱うものであり、その様々な音楽表現等の活動は共通である。音楽教育では音楽的知識や技能の習得を目標とし、音楽を学ぶものである。特別支援学校学習指導要領での音楽の目標は「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身につけるようにする。（2）感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。（3）音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。」と示されている。一方、日本音楽療法学会による音楽療法の定義は「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用する。」とされている。さらに音楽療法の効果として、「自律神経系、免疫系、ホルモン系への音楽の影響から、確実な音楽療法の有効性についてエビデンスが構築されつつあり、医療領域では音楽による不安軽減や疼痛緩和効果が明らかになっている。末期医療では、音楽療法を受けた人と受けなかった人との比較で受けた人の方の寿命が長かったという報告がる。認知症高齢者領域では、不安と不穏そして敵意の軽減があげられている。また音楽療法の実施後に、免疫に関わる NK 細胞の活性化が認められる。障害児・者領域では心と体の発達に役立つことがわかっている。」とまとめられている。音楽療法では様々な音楽活動を通して治療し、教育的指導も含め、その効果をねらうものである。

例えば、「歌う」という音楽的活動を音楽教育と音楽療法から見ると、音楽教育においては歌唱表現についての技能や読譜や歌詞の知識を得たり、音や音楽を感じて歌声で表現し、仲間とともに音楽作品を創り上げたりすることを楽しむことが目標となるが、音楽療法ではさらにその歌唱活動から得られる生理的、心理的、社会的働きを使って障害の回復や機能の維持や改善を図ることをめざすものである。器楽演奏や音楽づくり、鑑賞等の活動においても同様である。

教育課程の指導の形態として、音楽は教科別・領域別の指導として位置付けられている。教科別・領域別の指導とは、他の指導の形態を補充・深化・発展させるために必要な内容を、一人ひとりの実態や目標に照らし合わせて、計画的に組織し、自立的生活に必要な基礎的・基本的な学力を養う指導である。

音楽の指導内容については、特別支援学校学習指導要領（幼稚部・小学部・中学部・高等部）において教科のねらいをもとに、その内容を学校、児童生徒の実態に沿って具現化した題材構成によって

年間学習指導計画（年間を通しての学習内容を設定）を作成する。指導内容については、全体の学習計画と合わせながら指導者の裁量によって創意工夫され立案されている。

創意工夫として音楽療法を活用した取り組みが活かされる。特別支援学校における音楽指導は音楽の技能の習得だけではなく、行動の変容や情緒の安定、余暇活用、生活の質の向上などにつなげていくことが期待されるものであり、音楽教育だけでは補えない指導の部分を音楽療法的アプローチによって補填するとより、子どもたちの変容する姿から効果的な指導であることは確かであると考える。

(2)「自立活動」領域と音楽療法の共有性

特別支援学校においては教科の目標に加えて「自立活動」領域領域のねらいも関連させた学習指導計画を立案する。自立活動は、個々の児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基礎を培う領域である。特別支援教育における「自立活動」領域と音楽の関連性を見る先行研究（川崎 2015；立岡 2015；佐藤 2009）もあり、音楽療法のねらいや内容は相互に共有性があることがわかる。自立活動の内容として示されている「健康の保持」「身体の動き」とする項目では音楽の生理的な働きとしての特性が共有であり、「心理的な安定」は音楽によってもたらされる心理的な働きによる情緒の安定と同意であり、「環境の把握」は身体の感覚や音楽的な活動における認知と共有され、「人間関係の形成」や「コミュニケーション」は社会的な要素・働きと共通している。上野・菅・山崎ら（2015）は、自立活動の 6 区分 26 項目の内容をもとに音楽療法士の松井や宮本、加賀谷、谷口らのあげている音楽の機能と自立活動の比較し、『「自立活動」領域の 6 項目と音楽療法における音楽の機能との共通性』（表 1）として整理している。音楽療法と特別支援学校における「自立活動」領域の区分・項目とは様々な関連性が見られ共有性の高いことが示されている。

表 1「自立活動」領域の 6 項目と音楽療法における音楽の機能との共通性（上野・菅・山崎 2015）

区分・項目		音楽療法における音楽の機能についての言及		
		松井紀和(1980)「治療道具としての音楽の特性」	加賀谷哲郎・宮本啓子(2012)「ミュージック・ケア理論における音楽の効果」	谷口高志(2007)「音楽療法に関わる音楽の機能とその効果」
健康の保持	①生活のリズムや生活習慣の形成 ②病気の状態の理解と生活管理 ③身体各部の状態の理解と養護 ④健康状態の維持・改善	・音楽は、身体的運動を誘発する。	・注意集中力 ・生きがい	・運動誘発機能 聴覚を刺激することで覚醒水準を高める。 遊びとして欲求不満を解消する。 発声や運動を誘発することで整理・身体反応を活性化する。
心理的な安定	①情緒の安定 ②状況の理解と変化への対応 ③障害による学習上又は生活上の困難を改善･克服する意欲	・音楽活動は、自己愛的満足をもたらし易い。 ・音楽は人間の美的感覚を満足させる。 ・音楽は発散的であり、情動の直接的発散をもたらす。	・情緒の安定 ・不安行動の安定 ・自己コントロール ・リラクゼーション	・感情調整機能 ・感情や状態の表出機能 感情を喚起･調整して心理的苦悩を和らげる。 言語化できないものを表現することで緊張を弛緩する。 音楽への共感による美的感動が心的活性化を高める。

人間関係の形成	①他者とのかかわりの基礎 ②他者の意図や感情の理解 ③自己の理解と行動の調整 ④集団参加への基礎	・音楽が知的過程を通らずに、直接情動に働きかける。 ・集団音楽活動は社会性が要求される。	・関係性の発見と改善 ・集団参加の促進	・コミュニケーション機能 演奏による共同行為や応答によって社会性を高める。
環境の把握	①保有する感覚の活用 ②感覚や認知の特性への対応 ③感覚の補助及び代行手段の活用 ④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握 ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	・音楽は一定の法則性の上に構造化されている。	・発達機能の促進	・象徴機能
身体の動き	①姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ③日常生活に必要な基本動作 ④身体の移動能力 ⑤作業に必要な動作と円滑の遂行	・音楽は身体的運動を誘発する。	・身体機能の維持・改善	・身体誘発機能 発声や運動を誘発することで生理・身体反応を活性化する。
コミュニケーション	①コミュニケーションの基礎的能力 ②言語の受容と表出 ③言語の形成と活用 ④コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤状況に応じたコミュニケーション	・音楽はコミュニケーションである。	・コミュニケーション ・言葉の発達	・コミュニケーション機能 言語化できないものを表現することで緊張を弛緩する。 演奏による共同行為や応答によって
その他		・音楽には多様性があり、適用範囲が広い。 ・音楽活動には統合的精神機能が必要である。		・象徴機能

(3)「自立活動」領域と音楽活動の共有性

「自立活動」領域と音楽活動の共有性を『「教科別指導「音楽」の活動の指導内容と自立活動の区分と項目別の共有性」』（表 2）として示した。歌唱活動、音楽づくり、器楽活動、身体表現、鑑賞活動の 5 つの音楽的活動を自立活動の 6 つの区分項目に分け、教科指導としてのねらいに加え、音楽療法の視点からねらいを設定することで、ねらいを多角的に設定することができる。教科の指導目標に合わせて、音楽療法的アプローチの音楽活動を自立活動の内容区分にあわせて分類し、音楽的活動が自立活動のねらいを明確にし、指導内容を具体的に示す指標である。更に「個別の指導計画」に基づいて指導内容も表 2 を活用して策定し、指導にあたる教員間で指導のねらいを共有することが可能

となる。

表２　教科別指導「音楽」の活動の指導内容と自立活動の区分と項目別の共有性（日高まり子 2015）

区分・項目		音楽的活動による指導内容				
		歌唱活動	音楽づくり	器楽活動	身体表現	鑑賞活動
健康の保持	①生活のリズムや生活習慣の形成 ②病気の状態の理解と生活管理 ③身体各部の状態の理解と養護 ④健康状態の維持・改善	・発声のコントロール ・呼吸のコントロール	・音を出す ・声を出す ・響きに触れる ・自発的な発声や演奏	・打楽器演奏の基本的動作 ・演奏技能の獲得 ・演奏技能の向上	・身体各位への感覚刺激 ・身体の各部位の動きの理解 ・身体運動による全身活動	・音を感じる ・音への関心
心理的な安定	①情緒の安定 ②状況の理解と変化への対応 ③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	・声量のコントロール ・発声の気づき ・歌唱への興味関心 ・安定した発声(歌唱) ・合わせて歌う	・心地良い音を感じる ・様々な声や音を出す ・音量、音色のコントロール	・演奏音量のコントロール ・楽器と自己の二者関係の気づき ・楽器演奏への興味関心 ・演奏技能の向上 ・器楽演奏への参加	・音楽に合わせた身体の動きのコントロール ・速さに合わせた動き ・強弱に合わせた動き ・曲想に合わせた動き ・物語を想像した動き	・音楽を感じて参加する ・いろいろな音楽を感じる ・好きな音や音楽を感じる ・好きな曲想を感じる ・音楽の理解
人間関係の形成	①他者とのかかわりの基礎 ②他者の意図や感情の理解 ③自己の理解と行動の調整 ④集団参加への基礎	・自分の歌声への気づき ・他者の歌声への気づき ・歌唱の表現への気づき ・歌声のコントロール ・歌唱活動への参加 ・合わせて歌う	・声を変化させる ・音の種類を感じる ・友だちなど周りの人の音や声を感じる ・自分の音や声を他者に合わせる	・自分の鳴らす楽器の音への気づき ・他者の鳴らす楽器の音への気づき ・手指をコントロールさせた演奏 ・音量、音色のコントロール ・他者と合わせる活動	・簡単な身体の動きで一緒に表現活動をする ・自分の動きのコントロール ・他者の動きを感じる ・合わせて動く活動への参加	・集団を感じる ・一緒に鑑賞する ・心地よさを感じる ・面白さや楽しさを一緒に感じ共有する。 ・安心感の中での鑑賞
環境の把握	①保有する感覚の活用 ②感覚や認知の特性への対応 ③感覚の補助及び代行手段の活用 ④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握 ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	・自発的発声、発音 ・発声のコントロール ・教具を使った歌詞(言語)の理解…歌詞カード等 ・視覚、聴覚、運動の感覚の統合 ・旋律を覚えて歌う	・音や声の変化に気づく ・周囲の音や声の響きを感じる ・発音に気づく ・音の響きを感じる ・声や音の音源を感じる ・音の声の出し方を知る ・想像的な動きへの気づき	・楽器での感情の即興的表現 ・触覚、視覚、聴覚、運動などの各感覚の統合 ・旋律を理解して楽器を演奏する	・音楽に合わせた身体活動 ・布などの教材を使った身体活動 ・止まる、動く、待つ、強い、弱い、速い、遅い、ゆっくり、だんだん（強い、弱い、速い、遅い）、 ・触覚、視覚、聴覚、運動などの各感覚の統合	・音の響く空間への気づき ・聴くことへの気づき ・聴き分ける ・みんなと一緒に鑑賞する ・視覚、聴覚感覚の統合
身体の動き	①姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ③日常生活に必要な基本動作 ④身体の移動能力 ⑤作業に必要な動作と	・歌唱の姿勢保持 ・発声の技能 ・発声、歌唱の呼吸コントロール	・自分の体を感じる ・自分の各部位を感じる ・身体の動きを感じる ・音や音楽を感じて動く ・音楽に合わせて動く	・楽器の演奏技能（手指の動き、演奏姿勢の保持）	・身体の動きの柔軟性 ・音楽に合わせた身体の動き ・顔の表情のコントロール ・他者を感じながら、一緒に動く	・音、音楽を聴いて身体を自由に即興的に動かす。 ・旋律やリズムに合わせて身体を動かす。 ・動きの模倣

	円滑の遂行		・自由な動きを楽しむ ・想像して動く ・主体的な創造の拡がり			
コミュニケーション	①コミュニケーションの基礎的能力 ②言語の受容と表出 ③言語の形成と活用 ④コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤状況に応じたコミュニケーション	・他者の歌声の気づき ・自分の歌声(声)を出す ・自分の歌声(声)が他者へ聴こえるように伝える ・自分の声と他者の声を合わせ一緒に歌う ・歌詞の表現	・他者の表現を感じる ・他者と声や音を合わせる ・自分の声や音を変化させる ・自分の声や音を伝える ・演奏に合わせる	・演奏にみんなと一緒に参加する ・他者の演奏を聴き、合わせる。 ・曲想を感じて演奏する。 ・指示を聞いて演奏する。	・他者を感じてみんなと一緒に動く	・みんなと一緒に鑑賞する ・円滑な仲間との関係性作り

(4)授業実践事例(学習指導案)における「自立活動」領域と音楽療法的アプローチ

肢体不自由を対象とした特別支援学校での宮崎県内教員に対し授業公開研究として実施された学習指導案を資料として「自立活動」領域と音楽療法的アプローチについて表 1・表 2 と対照させて分析した。表 3 は抜粋資料として示したものである。

特別支援学校学習指導要領解説各教科編(2018)の「肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う　　特別支援学校」において、「児童の学習時の姿勢や認知の特性等に応じて、指導方法を工夫すること。」「各教科の指導に当たっては、特に自立活動の時間における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。」(p13,p15)等が示されている。また、「身体の動きやコミュニケーションの状態、認知の特性により、各教科の様々な学習活動が困難になることが少なくないことから、それらの困難を改善・克服するように指導することが必要である。」(p15)とされ、自立活動との密接な関係を図る必要性があり、各教科での配慮が求められている。身体の動きの困難さは、経験の不足やとなり基礎的な概念形成が偏り、認知の特性を把握した指導が必要となる。また、身体機能(姿勢、運動機能等)の維持や改善を図ることや呼吸機能の安定や改善、自発的表現の出現への興味・意欲を高めること、コミュニケーション能力の獲得・向上、心身のリラクゼーション、情緒の安定、など音楽療法的アプローチの視点を学習指導要領の教科の目標の配慮として加えることで、より学習効果を期待することができる。

肢体不自由児を対象とした音楽の学習指導における音楽療法的視点として、音・音楽に気づく活動、身体刺激・感覚を感じる活動、楽曲を楽しむ力・認知としての活動、仲間とともに楽しむ活動などを展開するように計画される。

別添資料として本授業の学習指導案を別掲している。目標、指導観、個別の実態をふまえた個別の指導目標、指導過程、教師の指導・支援の記述において、音楽科の内容に加えて自立活動に関連した支援について示されている。また、個別の実態から設定された個別の指導目標をもとに題材における評価が示されている。さらに、上述した音楽療法と自立活動の関連性をふまえた指導計画となっている。

表 3　学習指導案の「自立活動」領域及び音楽療法的アプローチとのの関連性

学習指導案「指導観」より抜粋 ※下線部分は「自立活動」領域及び音楽療法的視点との関連があるもの	自立活動・音楽療法との関連 (表 1・表 2 対照表)

本校の児童の障害の実態から、日常的な生活への制約があり、実際の体験が不足するために表現する力を高められないことも多い。そこで多様な音、音楽を取り扱う音楽を通して活動は、その音楽の曲想や歌詞などを通して想像的な活動を楽しむことができる※1ものである。さらに、旋律や構成されているリズムは、その音の響きの中にいることで様々な感覚を刺激する。それは、呼吸や心拍と同様に人間の生理的な活動と関連が深い。また心地よい音の響く空間では、心身をリラックスさせ、活動的な表現の場面では情動を発散させることができる。その中で、いろいろなリズムを音楽で楽しく体験することによって、心身リズムのバリエーションを増やすことができるものである。直接的、間接的に諸感覚に働きかける音・音楽を媒介とする学習活動では、発声や楽器の操作、身体表現から身体意識を高めることもできる。※2また非言語的なコミュニケーションから前言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーションへとそれぞれの認知レベルを意識せずに音を媒介にした相互関係を成立しやすい場面も多くあり、多様なコミュニケーション力を育てることができる。※3 ～　（省略）　～ そこで指導にあたっては、児童のそれぞれの音楽的な実態を配慮しながら、聴覚的な教材に加えて視覚的な教材も活用する想像的な表現活動を通して音・音楽への興味・関心を高め、自己表現力を高めたい。※1また歌唱や身体的活動、楽器を操作し演奏するなどの様々な表現活動を通して、楽曲の持ついろいろなリズムや旋律の特徴を感じさせ、表現活動の楽しさを味わわせたい。また、自分が即興的に作り出すことのできる自由な音・音楽を保障し開放感を味わわせるとともに、想像的で自由な表現活動は、自己表現力を高めさせることができるものである。さらに、視覚的刺激や、聴覚的な刺激、身体活動による刺激など感覚に働きかけるとともに、他の児童との音・音楽のやりとりを表現しながら作り上げる学習活動を通して、仲間に気づき、仲間への尊重から、コミュニケーション力の向上にもつながるものである。情動に直接働きかけることのできる音楽は、発達のレベルに関係なく受け入れることができる。音楽での表現活動に楽しく取り組む雰囲気を作り、身体の緊張をほぐすとともに情緒の安定を図りたい。合同学習を通して、集団で作り上げられる生き生きとした表現からの刺激を個々の内面に持つ表現力を養えるよう配慮した支援をしたいと考える。※2・※3	※1 【表1】 音楽の共感による美的感動が心的活性化を高める。（谷口） 【表2】 「環境の把握」認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 ※2・※3 【表1】 音楽は身体的運動を誘発する。（松井） 音楽は発散的であり、情動の直接的発散をもたらす。（松井） 集団音楽活動では社会性が要求される。（松井） 音楽はコミュニケーションである。（松井） 発達機能の促進（加賀谷・宮本） 身体機能の維持改善（加賀谷・宮本） 集団参加の促進（加賀谷・宮本） リラクゼーション(加賀谷・宮本) 発声や運動を誘発することで整理・身体反応を活性化する。（谷口） 音楽への共感による美的感動が心的活性化を高める。（谷口） 【表2】 「健康の保持」健康状態の維持・改善移管すること 「心理的な安定」情緒の安定に関すること 「環境の把握」保有する感覚の活用に関すること 「身体の動き」姿勢と運動・動作に関すること、作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること 「コミュニケーション」コミュニケーションの基礎能力に関すること、言語の受容と表出に関すること、言語の形成と活用に関すること、状況に応じたコミュニケーションに関すること 「人間関係の形成」他者との関わりに関すること、集団への参加に関すること

５．考察

表３で示したように、学習指導案の指導観の抜粋部分を表１・表２と比較すると、音楽指導と「自立活動」領域内容や音楽療法の音楽機能との関係性が強く、共通性のあることが分かる。音楽指導のねらいと「自立活動」領域、音楽療法のねらいを明確に区別することに困難性が見られる。特別支援学校の

音楽指導においては、音楽指導のねらいに障害に対応した発達支援や心身の回復改善維持などを合わせたねらいが加えられるため、「自立活動」領域と音楽療法的なアプローチの必要性が高くなっていると考えられる。自立活動が一人一人の実態に対応した活動であり、生活上の様々な困難に対し自分の力を可能な限り発揮させ主体的により良く生きようとさせるための指導であり、音楽療法はその具体的な指導のアプローチである。

音楽活動を詳細に分析していくと、それらは「自立活動」領域との関連性があり、音楽療法的なアプローチの手段と同じである。「旋律のリズムをバチを使って演奏する。」とい活動場面において、音楽教育では、リズムをとるためには、一定のテンポを打ちながら合わせることが音楽の基本である。テンポを合わせるためには、聴覚や視覚の発達が必要であり、さらに感覚を統合させてリズムを表現する。バチを持って演奏するためには演奏技能の習得が必要であるため、演習などを重ねていく。バチを持つためには身体機能の発達も欠かすことができない。持つ力や交互に打つ操作性の身体能力の発達が必要である。音楽表現においても単に音を出すのではなく楽器の音の響きを美しく表現することが求められる。音楽の感性を高めることにもつながり、更に音の響く空間に認知や音を聴いて心身のリラクセーションにつながる。

このように音楽という同じツールでの実践において、「自立活動」領域を活用した音楽指導と音楽療法的なアプローチの両面性を見出すことができ、効果的な指導として展開できる。

６．おわりに

音・音楽そのものは、私たちが生きていることそのものであることを直感的に感じことができる。音楽の中にあるテンポ、リズム、ハーモニーは、人が生きるための要素である。心臓の鼓動が聞こえ、呼吸が身体全体から生まれたリズムと共に動き、心が動き、内なる感動が、外へと放たれて、他者と繋がり調和を生む。音楽では、感性を言語化し、音楽を構成して、知識としての認識を高める。表現力を高めることは、自己表現に繋がり、自己を肯定し、自己実現へと向かう。音･音楽を体験することを通して、人間の豊かさや人格の豊かさに深く関わることができるのである。音楽教育と音楽療法の共有性である。

音楽指導の授業改善の手立てとして、音楽療法の理論研究を深め、実践方法を活用することは効果的である。公開授業等における学習指導案の題材設定の内容や授業展開において音楽療法のねらいや活動が活かされる場面も多い。教育現場においては教育としてのねらいがあり「音楽療法」というキーワードを使うことはないが、指導の取組の中にその理論と技能を共存させていく価値は高いと考えられる。

日本音楽療法学会学術大会でも学校現場における音楽療法の活用について、松本澄子(2016)「養護学校分教室の音楽～軽度知的障害児の自己肯定感にアプローチした試み」、藤田亜貴子(2019)『「音楽」が特別支援学校の学習「自立活動」領域にもたらした効果についての考察』などの事例報告がなされるようになってきている。特別支援学校における音楽療法的アプローチへの取り組みの効果の検証への関心も高まっていると考えられる。

本研究は、筆者が特別支援学校における音楽指導実践から得られた研究である。筆者は特別支援学校での出前授業の要請や外部専門家の活用実践研究としての研究の機会が与えられており、音楽教育と音楽療法の相乗効果を高める指導の在り方について学校現場と連携して研究を進めていきたいと考える。さらにここでは言及できなかった評価規準についても音楽療法的な視点を取り入れたものとし

ての研究を深めていきたいと考える。

参考資料・文献

上野智子・菅道子・山崎由可里(2016)『中学校特別支援学級における音楽療法的視点を取り入れた「自立活動」の試み』和歌山大学教育学部紀要教育科学第 66 集

土野研治(2006)「声・身体・コミュニケーション…障害児の音楽療法…」春秋社 P50 ～57

福間有香・高橋雅子(2012) 「特別支援学校における音楽授業の研究(1)－音楽療法と音楽中心主義音楽療法－」「特別支援学校における音楽授業の研究 (2) －音楽中心主義音楽療法を導入した実践構想－」山口大学教育学部研究論叢（第 3 部） 学内刊行物(紀要等) 62 巻(1)P215～225 (2) P227～237

藤田亜貴子(2019)『「音楽」が特別支援学校の学習「自立活動」にもたらした効果について考察する～重度重複障害 A 君の変化を通して～』第 19 回日本音楽療法学会学術大会要旨集 P119

松井紀和(1980)「音楽療法の手引き」牧野出版

松井紀和(1988)「発達障害児の音楽療法」音楽療法研究年報 vol. 17

松井紀和(1997)「精神科医松井紀和が語るカウンセリングを学ぶ人のための心理療法の基礎と実際」東京カウンセリング協会

松本澄子(2016)「養護学校分教室の音楽～軽度知的障害児の自己肯定感にアプローチした試み～」第 16 回日本音楽療法学会学術大会要旨集 P72

小学校学習指導要領(2017)文部科学省

小学校学習指導要領解説音楽編 (2017)文部科学省

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部）(2009) 文部科学省

特別支援学校教育要領・学習指導要領 総則編 (2018) 文部科学省

特別支援学校教学習指導要領、解説 各教科編（小学部・中学部/高等部）(2018)文部科学省

別添資料

肢体不自由支援学校小学部　音　楽　科　学　習　指　導　案（例）

実施日　平成 20 年 10 月 31 日
実施場所　宮崎県立清武せいりゅう支援学校
指導者　日髙まり子

1　主題　「想像的な表現を楽しもう」
“お星さまやお月さまと遊んで、楽しい宇宙旅行へ出発”

教材曲
①「風のおはなし」　作詞／作曲　坂田修
②「星に願いを」　作詞　ネッド・ワシントン／作曲　リー・ハーライン
③「いちばんぼしみつけた」　作詞　藤本ともひこ／作曲　中川ひろたか
④「ほしのこキララ」　作詞　柴田陽平／作曲　平部やよい
⑤「お月さまがついてくる」　作詞／作曲　中川ひろたか
⑥「つきまでいこう」　作詞／作曲　新沢としひこ
⑦「うちゅうせんのうた」　作詞　ともろぎゆきお／作曲　峯陽
⑧「月夜のばんに」　作詞／作曲　酒井幸美
⑨「月夜のポンチャラリン」　作詞　斎藤久美子／作曲　越部信義
⑩「キラキラ星」　作曲　作者不詳

2　目標
○　表現活動や鑑賞を通して、想像的な活動の楽しさを味わう。

○　自己表現力を高め、コミュニケーションの拡大を図る。
○　学習活動を通して、心身の発達や情緒の安定を図る。

3　指導観

○　本校の児童の障害の実態から、日常的な生活への制約があり、実際の体験が不足するために表現する力を高められないことも多い。そこで多様な音、音楽を取り扱う音楽を通して活動は、その音楽の曲想や歌詞などを通して想像的な活動を楽しむことができるものである。さらに、旋律や構成されているリズムは、その音の響きの中にいることで様々な感覚を刺激する。それは、呼吸や心拍と同様に人間の生理的な活動と関連が深い。また心地よい音の響く空間では、心身をリラックスさせ、活動的な表現の場面では情動を発散させることができる。その中で、いろいろなリズムを音楽で楽しく体験することによって、心身リズムのバリエーションを増やすことができるものである。直接的、間接的に諸感覚に働きかける音・音楽を媒介とする学習活動では、発声や楽器の操作、身体表現から身体意識を高めることもできる。また非言語的なコミュニケーションから前言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーションへとそれぞれの認知レベルを意識せずに音を媒介にした相互関係を成立しやすい場面も多くあり、多様なコミュニケーション力を育てることができる。そこで、本主題において指導過程の流れに沿って組み合わされる上記の①から⑩の教材曲は、様々な音楽的活動に取り組ませながら自立活動の内容も関連させて展開させるものである。導入歌唱教材曲として「風のおはなし」を歌わせ、学習の始まりを意識し、学習活動が楽しめる雰囲気を提示するものである。楽曲はＮＨＫ「おかあさんといっしょ」2004 年５月の月の曲として扱われた軽快な４拍子の旋律である。キラキラ、フワフワ、クラクラなどの擬態語の歌詞を楽しめる爽やかな曲想である。さらに 1940 年ディズニー映画「ピノキオ」の主題歌である「星に願いを（オルゴール版）」を聴かせながら音楽に合わせてツリーチャイムを奏し、本時の想像的な授業の展開のはじまりを感じ取らせるものである。展開部の学習活動では星や月、宇宙旅行をテーマにした楽曲を物語的に配列して学習を展開するものである。「いちばんぼしみつけた」は日本的な旋律を取り入れた音域が１オクターブの楽曲で、夕暮れの空を見上げて星を見る様子を想像させることができる。ヤマハ音楽振興会ヤマハ音楽教育システムプライマリーコースの教材として取り上げられている「ほしのこキララ」は 2、3 年生の既習曲である。リズミカルなハ行の歌詞のおもしろさを歌唱と身体表現で楽しめる楽曲である。特徴的な旋律やリズムはスティックリボンを使って身体活動を取り入れながら、そのリボンスティックの動きから視覚的な感覚も感じ取らせるものである。「お月さまがついてくる」も既習曲であり、月を擬人化した歌詞から他の教材曲と雰囲気の違う劇的な展開を楽しめる楽曲である。さらに「つきまでいこう」ではいろいろな歌詞に合わせた自発的な身体表現活動を取り入れながら楽しむことができるものである。「うちゅうせんのうた」では宇宙旅行への想像的な活動を楽しむことができ、役作りを設定して劇作りにも発展できる楽曲ある。「月夜のばんに」（幼児教育雑誌ラポム 2004 年 4 月号に掲載された第 7 回ラポム大賞優秀賞曲）は軽快なリズムの旋律で狸や兎などの動物の擬人化させた動きの歌詞から身体表現を楽しめる楽曲である。日本的な旋律の「月夜のポンチャラリン」は踊りのリズムを楽しみながら身体表現や太鼓などの器楽表現などに展開できる楽曲である。「キラキラ星」は「ＡＢＣの歌」など童謡として親しまれている旋律で児童も聴きなれた楽曲で、器楽教材として取り扱い、楽器の基本的な演奏技能を高めることができるよう展開させるものである。１学期に扱った「ドレミの歌」での音階への興味関心をさらに高められるように、メロディーベルやトーンチャイムなどを使って音の響きを感じ取らせる表現活動に発展させるものである。「お星さまやお月さまと遊んで、不思議な宇宙旅行へ」のテーマにあわせて構成された本主題の楽曲は、歌詞や旋律がわかりやすく表現活動を児童の個々の実態に合わせて様々に展開できるものである。楽曲の特徴を声や楽器の音、身体活動を使って想像的に表現させるもので、即興的な音作りに取り組むこともできる。即興的な表現に取り組むことは、自己表現力を高め、他の児童の表現を認め合いコミュニケーション力の向上につなげることができるものである。楽しく学習活動に取り組みながら様々な感覚を刺激させ、明瞭な発音や言葉の理解に発展させられることができるように、音楽の表現活動の中での児童一人一人の身体の動きや呼吸、発声を大切にし、個々の内面的な表現を保障したいと考えた。

○　本学習グループは、第１学年（女子１名）第２学年（男子１名、女子１名）、第３学年（女子２名）、計５　名で構成されている。肢体不自由に加えて知的障害等の障害が重複しており、盲学校・聾学校及び養護学校学習指導要領に準じて教育課程を設定している学習グループである。周囲からの働きかけに対して自分の意思を表出可能な表情や発声等の手段を用いて表現はするものの、運動・動作が制限されているために積極的な周囲への働きかけが少なかったり、受動的な様子が見られることもある。人とのかかわり合いを楽しみ、自ら周囲の人たちに積極的に自己表現することができるようにするためには、きめ細かな教育的な支援の工夫が必要である。音楽に対しては、音・音楽の面白さに気づき、興味関心が高く、児童自らそれぞれに音楽を楽しもうとする音楽的反応のよい児童の様々な表情が見ら

れる。四肢の麻痺等身体を自由に動かすことには支援は必要であるが、表現の方法はそれぞれに特徴があり、積極的な表現活動が見られたり、内面的な表現力の高さを感じさせられる活動の場面も見られたりする。また、T１以外の授業を支援してくれるT２からT５は、普段の学級での個別の指導に沿った指導目標と児童の実態を考慮し、一人一人の児童の自発的な動きや表現を大切にした細やかな支援がなされ、児童の学習意欲を高めさせる表現活動が展開されている。

○　そこで指導にあたっては、児童のそれぞれの音楽的な実態を配慮しながら、聴覚的な教材に加えて視覚的な教材も活用する想像的な表現活動を通して音・音楽への興味・関心を高め、自己表現力を高めたい。また歌唱や身体的活動、楽器を操作し演奏するなどの様々な表現活動を通して、楽曲の持ついろいろなリズムや旋律の特徴を感じさせ、表現活動の楽しさを味わわせたい。また、自分が即興的に作り出すことのできる自由な音・音楽を保障し開放感を味わわせるとともに、想像的で自由な表現活動は、自己表現力を高めさせることができるものである。さらに、視覚的刺激や、聴覚的な刺激、身体活動による刺激など感覚に働きかけるとともに、他の児童との音・音楽のやりとりを表現しながら作り上げる学習活動を通して、仲間に気づき、仲間への尊重から、コミュニケーション力の向上にもつながるものである。情動に直接働きかけることのできる音楽は、発達のレベルに関係なく受け入れることができる。音楽での表現活動に楽しく取り組む雰囲気を作り、身体の緊張をほぐすとともに情緒の安定を図りたい。合同学習を通して、集団で作り上げられる生き生きとした表現からの刺激を個々の内面に持つ表現力を養えるよう配慮した支援をしたいと考える。

4　指導計画

「想像的な表現を楽しもう」・・・・・・・・（全８時間本時　４／８）

（１）「お星さまやお月さまを見つけよう」　・・・・　２時間

（２）「お星さまやお月さまと遊ぼう」　・・・・　２時間（本時２／２）

（３）「宇宙旅行に出発しよう」　・・・・　２時間

（４）「宇宙旅行を楽しもう」　・・・・　２時間

学　習　活　動	1	2	3	4	5	6	7	8
歌唱　①③④⑥⑦	→	→	→	→	→	→	→	→
器楽　②⑦⑨⑩		→	→	→	→	→	→	→
鑑賞　②⑤⑦⑨⑩			→	→	→	→	→	→
身体表現　④⑤⑥⑦⑧⑨	→	→	→	→	→	→	→	→

5　本時の学習

（１）　本時の目標

○　想像的な表現を楽しむことができる。

○　曲想を感じて歌唱表現や器楽表現を楽しむことができる。

○　友達を意識して、一緒に表現活動を楽しむことができる。

（２）　児童の実態及び目標

	実　　態	目　　標
A	・　歌詞の響きやリズム関心を持ち、音楽を感じて楽しむことができるが、活動の流れの理解への支援が必要である。 ・　表現活動や音によるコミュニケーションを楽しむことができる。 ・　歌詞を覚えて歌うことができ、楽器にも興味関心をもって工夫して演奏することができる。	・　想像的な表現活動を楽しむことができる。 ・　言葉のフレーズやリズムを模倣して歌ったり、楽器を鳴らすことができる。 ・　周囲の活動を意識して表現活動を楽しむことができる。
B	・　好きな旋律やリズム、歌詞を感じて音楽を楽しむことができる。 ・　表現活動や音によるコミュニケーションを楽しむことができる。 ・　明瞭な発音で歌うことができ、楽器への興味関心をもって演奏することができる。	・　旋律やリズムの特徴を感じて想像的な表現活動を楽しむことができる。 ・　明瞭な発音に気をつけて歌唱ができ、楽器を工夫して鳴らすことができる。 ・　友達を意識して表現活動を楽しむことができる。
C	・　好きな旋律やリズム、歌詞を感じて音楽を楽しむことができる。	・　旋律やリズムの特徴を感じて想像的な表現活動を積極的に楽しむことができる。

	・　表現活動や音によるコミュニケーションを楽しむことができる。 ・　楽器を鳴らすことができ、部分的な歌詞を発音できる。 ・　四肢の麻痺のためスムーズな活動ができないが、意欲的に活動できる。	・　言葉のフレーズを感じて歌うことができ、音の響きを感じながら器楽の表現を工夫して鳴らすことができる。 ・　友達を意識して表現活動を楽しむことができる。
D	・　旋律やリズムを感じ、歌詞の内容を理解して楽しむことができる。 ・　表現活動や音によるコミュニケーションを楽しむことができる。 ・　音楽に合わせて楽器を鳴らしたり、歌うことができる。 ・　四肢の麻痺のためスムーズな活動ができないが、意欲的に活動できる。	・　旋律やリズムの特徴を感じて想像的な表現活動を楽しむことができる。 ・　丁寧に発音しながらフレーズを感じて歌ったり、楽器の鳴らし方を工夫して響かせてできる。 ・　友達を意識して表現活動を楽しむことができる。
E	・　表現に消極的な様子があり表現に支援が必要であるが、音楽を感じて楽しんでいる表情が見られる。 ・　表現活動や音によるコミュニケーションを楽しむことができる。 ・　好きな響きの楽器を操作して鳴らすことができる。	・　想像的な表現活動を楽しむことができる。 ・　曲想を感じて声を出して歌ったり、楽器を鳴らすことができる。 ・　音の響きを感じながら、友達を意識して表現活動を楽しむことができる。

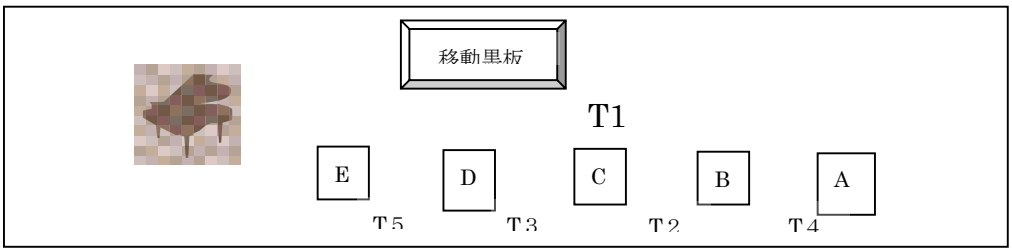
(3)指導過程

時間	学習内容及び活動	指導上の留意点					資料準備
		A	B	C	D	E	
導入 4分	◎　入室時から音楽を提示し、音楽室での学習活動の準備をする。 1「風のおはなし」を歌う。	・　導入時では、排泄指導や水分補給等で始まりの時間に児童が揃わない場合がある。児童の揃うのを待ちながら体調等の実態把握をする。 ・　音楽のある空間を提供して、音楽を聴くことで音に気付き、学習の始まりへの意識付けをさせる。 ・　「キラキラ」「フワフワ」「クラクラ」の歌詞を意識して歌えるように先読みや強調した発音等で支援する。 ・　曲想を感じて歌えるように身体表現も交えた表現を支援する。 ・　Ｔ２～Ｔ５は児童の表現活動への参加の様子を見ながら支援する。					ＣＤ ＣＤ 歌詞カード
展開 4分	2「星に願いを」を聴く。	・　曲想やテンポの変化を感じ取ることができるように支援する。 ・　Ｔ１はツリーチャイムをＣＤの音楽に合わせて範奏しながら提示し、各児童に奏させる。 ・　Ｔ２～Ｔ５は楽器の鳴らしやすい高さや位置を調整する。					ＣＤ ツリーチャイム
30分	3『お星さまやお月さまと遊ぼう』 ・「いちばんぼしみつけた」を聴き、部分的なフレーズを歌う。 ・「ほしのこキララ」を歌う。	・　空や星空、宇宙を想像する表現活動を楽しめるように支援する。 ・　「いちばんぼしみつけた」「あしたげんきになあれ」「みんなげんきになあれ」の旋律を感じ取らせ、口承しながら歌えるように支援する。 フレーズの歌詞を発音できるように支援する。／旋律を正確にうたえるように支援する。／歌詞を正確に歌えるように支援する。／はっきりとした発音ができるよう支援する。／声を出せるように支援する。 ・　「一番星」「２番星」「３番星」と数字的に変化する星の歌詞を感じられるように支援する。理解できる児童には数字の順序性と歌詞の順序を感じ取れるよう支援する。 ・　「ピ」「パピプペポ」の歌詞の発音を楽しめるように支援する。 ・　ハ行の発音での唇の使い方に気づかせ、明瞭な発音ができる　ように支援する。 ・　歌詞やリズムとあわせたスティックリボンの細かな動きや旋律に					ＣＤ 歌詞カード ＣＤ 歌詞カード スティック

<table>
<tr><td></td><td></td><td>あわせた動きができるように支援する。
・　星をモチーフにした活動から、曲想の変化を感じながら学習の流れがつなげられるように楽曲の提示や展開をたのしめるようにする。</td><td>ﾘﾎﾞﾝ</td></tr>
<tr><td></td><td>・「お月さまがついてくる」を聴く。
・　「つきまでいこう」を歌ったり身体表現する。</td><td>・　月を擬人化した歌詞や曲想をスポットライトの光を使うなどの視覚的な演出を工夫したりして楽しめるように支援する。
の工夫をしながら楽しめるように支援する。
・　「歩く」「走る」「泳ぐ」「ボートを漕ぐ」「梯子を登る」「飛行機飛ばす」「ロケット飛ばす」の歌詞に合わせて身体表現できるように支援の
工夫をする。
・　鈴を持って鳴らしながら身体的な表現活動をすることで、動くことや身体への意識を高めさせることができるように支援する。
・　Ｔ２～Ｔ５は車椅子の移動など児童の身体の動きがダイナミックにできるように支援の工夫をする。
<table>
<tr><td>車椅子の動きを支援しながら、いろいろな動きを感じられるように支援する。</td><td>歩行を配慮し、動きを工夫させながら、活動に集中できるように支援する。</td><td>車椅子の動きを支援しながら身体の動きのバリエーションを工夫させる。</td><td>車椅子の動きを支援しながらスムーズな身体の動きを工夫させる。</td><td>歩行を配慮しながら、身体の動きを楽しめるように支援をする。</td></tr>
</table></td><td>ＣＤ
歌詞カード
月 模型
ｽﾎﾟｯﾄﾗｲﾄ
鈴</td></tr>
<tr><td></td><td>・「月夜のばんに」を楽しむ。
・「月夜のポンチャラリン」を楽しむ。</td><td>・　「ポン」「ピョン」「ニョロ」のリズムの特徴を感じながら、サウンドシェイプスを打てるように支援したり、歌詞にあわせた動きを楽しめるように支援する。
・　Ｔ２～Ｔ５は児童の動きや楽器の演奏を支援する。
・　音楽に合わせて鳴子を鳴らしながら表現が楽しめるように支援の工夫をする。
・　楽器を替え音の違いや手指の動きの変化を感じ取らせる。
・　日本的な旋律にのせた踊りの雰囲気を楽しめるように支援の工夫をする。
<table>
<tr><td>活動を楽しめるように支援する。楽器を持たない場合は、指で奏せるように支援する。</td><td>歌詞を感じて表現を楽しめるように支援する。リズムの特徴を奏せるように支援する。</td><td>歌詞を理解して表現を楽しめるように支援する。楽器の持ち方に気をつけさせながら、リズムを意識できるように支援する。</td><td>歌詞を理解して表現を楽しめるように支援する。手指の緊張をゆるめさせながら楽器の演奏ができるように支援する。</td><td>活動を楽しめるように支援する。楽器操作への関心が高められるように支援する。</td></tr>
</table></td><td>ＣＤ
歌詞カード
ｻｳﾝﾄﾞｼｪｲﾌﾟｽ
ｸﾘｯﾌﾟｱｰﾑ
鳴子</td></tr>
<tr><td></td><td>・「キラキラ星」の合奏をする。</td><td>・　メロディーベルで旋律音を鳴らし、Ｔ１はメタルホーンの演奏を加えて音の響きあいを感じられるように支援の工夫をする。
・　Ｔ２～Ｔ５は児童のそれぞれの楽器の鳴らし方の支援の工夫をしな
がら、さらに響きの幅を広げられるように、トーンチャイムで和音を鳴らして、児童に響きを感じさせられるように器楽の表現の支援をする。
<table>
<tr><td>楽器を持って音がなるように支援する。</td><td>音の出すタイミングを支援する。</td><td>楽器の鳴らし方や音の出すタイミングを支援する。</td><td>緊張を緩めながら楽器のならし方や音をだすタイミングを支援する。</td><td>音を出すタイミングを支援する。</td></tr>
</table></td><td>メロディーベル
メタルホーン
トーンチャイム
音絵</td></tr>
<tr><td></td><td>・「うちゅうせん</td><td>・　本時の学習を発展させて、次時の学習の宇宙旅行への想像的な活動</td><td>ＣＤ
歌詞カ</td></tr>
</table>

	のうた」を聴く。	の導入曲として期待感を高めて楽しめるように支援する。 ・　歌詞の中に聴かれる台詞に合わせた役を表現することを楽しめるよ うに支援の工夫をする。 ・　各フレーズの特徴を感じられるように支援の工夫をする。	ード
終結 ２分	４　終わりの歌を歌う。 ５　次時の予告を聞く。 ６　終わりのあいさつをする。	・　活動の終わりを意識させる。 ・　次時では、本時の活動を発展させて楽しむことを知らせる。 ・　当番を指名し、授業の終わりを意識させる。 ・　当番の自発的な発声を促す。 ・　姿勢に気をつけて挨拶ができるように支援する。	

(4) 座席表



(5) 評価

氏 名	評　価　の　観　点	評 価
A	・　想像的な表現活動を楽しむことができたか。 ・　言葉のフレーズやリズムを模倣して歌ったり、楽器を鳴らすことができたか。 ・　周囲の活動を意識して表現活動を楽しむことができたか。	
B	・　旋律やリズムの特徴を感じて想像的な表現活動を楽しむことができたか。 ・　明瞭な発音に気をつけて歌唱ができ、楽器を工夫して鳴らすことができたか。 ・　友達を意識して表現活動を楽しむことができたか。	
C	・　旋律やリズムの特徴を感じて想像的な表現活動を積極的に楽しむことができたか。 ・　言葉のフレーズを感じて歌うことができ、音の響きを感じながら器楽の表現を工夫して鳴らすことができたか。 ・　友達を意識して表現活動を楽しむことができたか。	
D	・　旋律やリズムの特徴を感じて想像的な表現活動を楽しむことができたか。 ・　丁寧に発音しながらフレーズを感じて歌ったり、楽器の鳴らし方を工夫して響かせてできたか。 ・　友達を意識して表現活動を楽しむことができたか。	
E	・　想像的な表現活動を楽しむことができたか。 ・　曲想を感じて声を出して歌ったり、楽器を鳴らすことができたか。 ・　音の響きを感じながら、友達を意識して表現活動を楽しむことができたか。	